西暦 　　　　年　　　　月　　　　日

公益財団法人 髙梨学術奨励基金

理事長　髙梨　誠三郎　殿

公益財団法人 髙梨学術奨励基金

２０２６年度(2026.4.1～2027.3.31) 若手研究助成 申請書

（２０２５年１０月３１日必着）

※パソコンで入力の際は、全て単色黒、全角(英字及び数字は半角)１０．５ポイント以上使用。

なお、記入枠不足の場合は、枠拡張とそれによるページ増（全８ページまで）は可とします。

1．調査研究テーマ（必ず日本文・英文両方を記入してください。）

|  |
| --- |
| 日本文： |
| 英　文： |
| 分野 ： 該当する番号、分野を下記から選んで右に記入してください | 番号 |  | 分野 |  |
| 1．考古学　　　2．文献史学　　　3．美術史　　　4．文明興亡史 |

2．申請者　　「私は、貴財団の公募要項記載事項に同意して申請します。」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 姓 | 名 | 生年月日 |
| ふりがな |  |  | (西暦) 　 年 　月 　日　　　　満　 歳（２０２６年４月１日現在） |
| 漢字 |  |  |
| 連絡先○郵便物の受取もできる所です。○変更があった場合は必ず連絡願います。 | （〒　　　-　　　　） |
|  |
| 電話番号　（　　　　-　　　　　-　　　　　　）携帯電話番号　（　　　　-　　　　　-　　　　　　）メールアドレス | 所属（大学・研究機関 等）名 及び 職名 |
| 所属先電話番号（　　　　- 　– ） |

3．助成申請金額

|  |  |
| --- | --- |
| 助成申請額　　　　　　　　　　　　　万円 | 本調査研究の費用総額　　　　　　　　　　　　　万円 |
| 助成申請額の使途を具体的に記載　例：書籍代１０万円（内訳\*\*\*　\*\*\*\*円）等 |

4．本調査研究について当財団以外への併願状況 （当財団運営改善のための参考資料）

|  |
| --- |
| 申請先、申請額及び確定又は未確定を明記※未確定の場合は、確定次第速やかに財団事務局(Mail：p.f.takanashi@marujin.co.jp)までご連絡ください。 |

5．申請者の略歴（最終学歴及び職歴についてご記入ください。）及び、当財団での過去の採択履歴（採択年度と対象の分野）

|  |
| --- |
|  |

6．協力者（調査研究テーマを進めるにあたり不可欠な協力者がおりましたらご記入ください。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 |  | 所属大学・研究機関及び職名 |  |
| 申請者との関係 |  |
| 本「調査研究テーマ」との関わり（具体的に） |  |

7．調査研究の概要

1. 本調査研究テーマについて、選定した理由、目的、内容、期間、方法、期待される成果等

|  |  |
| --- | --- |
| 本調査研究名及びそのテーマを選定した理　由 |  |
| 目　的 |  |
| 内　容 |  |
| 期　間 |  |
| 方　法 |  |
| 期待される成果 |  |
| 特記事項 |  |

1. 先学および自身の調査研究により既に解明されていること、いないこと。

|  |
| --- |
|  |

1. 本調査研究テーマは準備段階か、実施段階か。それはどこまで進んでいるか。

|  |
| --- |
|  |

④　期待される成果が得られた場合、その意義は該当学術分野においてどのようなものか。

|  |
| --- |
|  |

⑤　期待される成果が得られた場合、その意義は一般社会においてどのようなものか。

　　　※５ページに設問の主旨説明及び回答欄を記載してあります。

⑥　申請者の調査研究履歴（主なテーマ、内容、成果の概要、研究機関及び研究資金調達状況）

|  |
| --- |
|  |

⑤期待される成果が得られた場合、その意義は一般社会においてどのようなものか。

※下記、設問の主旨をご理解の上、回答をお願い致します。

医学が発達すると、それまで治らなかった病気が治る等、社会の方々にとっても、それが有用で望ましいも

のである事は容易に理解出来ます。

一方、人文科学が発達すると、それが社会にどの様な良い事をもたらすのかを人文科学界とは縁のない一

般の方々が、簡単に理解出来る様に易しく説明する事は大変に難しい事と存じます。

昨今、我国では、人文科学軽視の風潮がますます強くなっています。

当財団は、この傾向を改め人文科学研究が隆盛となる様、強く望んでいます。

それを実現する為には、社会の応援が必要であり、応援をしてもらうには一般社会の方々にとって、人文科

学の発達が何故有用で望ましい事なのかを、認識してもらう事が必要です。

そこで申請するあなたに質問します。

助成を申請された研究の成果は社会にとって何故有用であり、どの様な望ましい事をもたらすのか、若しく

は、それに繋がるのか、その理由は何故か？について学界外の一般の方が理解出来る様、易しく説明して

下さい。

これが設問⑤の主旨です。

多くの人文科学研究者が研究そのものと同じ位、その社会的な意義や有用性を広く社会に発信し続ければ、

理解し賛同し、応援する方々が増え、いつの日か人文科学隆盛の日がくると信じ、誠に小さな一歩ではあり

ますが、財団として出来ることから始めたいと考えました。ご研究の内容とは異なりますが、応募するあなた

に考えて頂く事を目的としてこの質問を設けました。

|  |
| --- |
|  |

8．推薦書がある場合は推薦者より直接提出してください（所定の用紙使用）。

【注記】

論文などの著作物や膨大な資料は審査の対象となりませんので、添付しないでください。

以上